

深い学びの実現に向けた遠隔合同授業の取組Ⅱ

—肢体不自由特別支援学校の実践—

企画者 田丸 秋穂
司会者 村主 光子
話題提供者 岡部 盛篤, 田村 裕子
指定討論者 西村 健一
長田 友紀

(筑波大学附属桐が丘特別支援学校)
(筑波大学附属桐が丘特別支援学校)
(筑波大学附属桐が丘特別支援学校)
(島根県立大学)
(筑波大学)

KEY WORDS: 遠隔教育 深い学び 授業改善

【企画趣旨】

全国の肢体不自由特別支援学校における、小・中・高等学校に準ずる教育課程（以下、準ずる教育課程）で学ぶ児童生徒数は減少傾向にあり、各学部児童生徒数が1、2名という学校も少なくない。こうした現状の中で、学びを広げ、深めるための学習集団を確保するために、筑波大学附属桐が丘特別支援学校（以下、桐が丘）では、平成31年度（令和元年度）より全国の肢体不自由特別支援学校と遠隔合同授業を実施してきた。

本シンポジウムにおいては、これまでの遠隔合同授業の実践の中で見えてきた効果や課題と、課題解決に向けた具体的実践について話題提供し、学びを広げ、深めるための遠隔合同授業の在り方について参加者の方々と議論を深めたい。

(田丸 秋穂)

【話題提供の要旨】

○話題提供 1

桐が丘では、昨年度（令和2年度）、全国の11校の肢体不自由特別支援学校及び1校の特別支援学級と遠隔合同授業を実施した。

実践においては、「主体的・対話的で深い学び」につながる「学びの質」を評価する観点を設定し、これらの観点をふまえ、遠隔合同授業をツールとした単元案、授業案を作成し、授業を行った。

実施した12校の内7校の学校に研究協力依頼をし、授業を担当した教員及び授業を受けた児童生徒に遠隔合同授業に関するアンケート調査を行った。児童生徒には、いつもの通常の授業と比べてどうだったか、「学習への興味・モチベーション」「意見交流への意欲」「表現の工夫」「意見、考えの比較」「学習の理解、考えの広がり、深まり」「さらなる学び、探究への意欲」に関わる6つの観点からの質問をし、「いつもよりそうだ」「いつもと同じだ」「いつもよりそうでなかった」から選んでもらい、その理由やその具体を自由記述で答えてもらった。また、教員には、準ずる教育課程における学びの課題や、遠隔合同授業に期待する効果、実施して感じた効果や遠隔合同授業の取組における課題等について質問した。児童は15名のべ47件、生徒53人のべ150件の回答を得、教員からは23名の回答を得た。アンケートからは、遠隔合同授業が多く児童生徒がもっている新しい仲間と学ぶ興味や意欲を満たすツールとなることがわかった。また、遠隔合同授業によって、児童生徒の学習の理解や考えの深まりにつながったケースにおいては、多様な意見を知って意見を比べられたこと、相手に伝えたいという意欲を高められたことが大きな要因となったと考える。一方で、肢体不自由の児童生徒の学

びの課題として多くの教員が感じている「思考の深まり」や「新しい考えの形成」には、まだ十分に遠隔合同授業を活用できていない現状も見えてきた。遠隔合同授業をツールとして、そうした「思考の深まり」や「新しい考えの形成」につながる授業実践を目指していく必要がある。（田村 裕子）

○話題提供 2

遠隔合同授業を活用して、思考の深まりをねらった中学部3年の国語の実践について話題提供する。本実践は、桐が丘4名の生徒と千葉県立桜が丘特別支援学校の生徒1名、青森県立八戸第一養護学校の生徒1名で実施した。

本単元は、教材を読むことを通して、教材のテーマである人生や出会いについて自分の考えをもつとともに、遠隔合同授業によって、同世代の考えと自分の考えを照らすことで、よりテーマに対する思考の深まりを実感することを目標としたものである。こうした目標に迫るために、話し合いのグループのメンバーを入れ替えながら、多様な意見に触れられるようにしたり、遠隔合同授業後に桐が丘単独で各グループの話し合いで出た意見を共有し、再び個々で教材に立ち返って読みや考えをさらに深める活動を行ったりするなどの指導の工夫を図った。学びを深めるという視点から、遠隔合同授業を効果的に活用するための指導の工夫や、そうした指導による生徒の変容について具体的に話題提供する。（岡部 盛篤）

【指定討論者の要旨】

遠隔合同授業は、全国に点在する肢体不自由特別支援学校の準ずる教育課程に在籍する児童生徒において、学びの質を高めるための有効なツールとなり得る。しかしながら、遠隔合同授業によって深い学びを実現するためには、ただつなぐだけではなく、一層の指導の工夫が必要となる。そうした指導の工夫について遠隔教育の視点から議論を深めたい。

(西村 健一)

「主体的・対話的で深い学び」につながる実践のためには、そもそも「主体的・対話的で深い学び」とはどんな学びなのかを追究する必要がある。また、これまでの国語科教育で行われてきた実践例を提示しながら、「主体的・対話的で深い学び」に向かうための指導の在り方を議論したい。

(長田 友紀)

※本研究は、令和2年度文部科学省委託事業 新時代の学びにおける先端技術導入実証研究事業（遠隔教育システムの効果的な活用に関する実証）の一部である。アンケート調査にあたっては、筑波大学附属学校教育研究倫理委員会の承認を得た。

(TAMARU Akiho, OKABE Moriatsu, TAMURA Yuko,
NISHIMURA Kenichi, OSADA Yuki)